

「ハイデルベルク・ストラスブール派遣報告書」

京都大学文学部 現代史学専修2回生 千種杏奈

今回の派遣プログラムでは「ヨーロッパとアジアにおける紛争と平和」というテーマのもと、ハイデルベルク大学とストラスブール大学において発表・意見交換、またそれぞれの地域の名所見学、欧州議会訪問を行いました。

私は主に、ハイデルベルク大学のワークショップについて報告したいと思います。

ワークショップはハイデルベルク大学の文化越境専攻の学生と京大の学生それぞれの発表、質疑応答、最後に参加者で議論を行うという形式で開催され、お茶やお菓子をご用意して頂いたなか、和やかな雰囲気での始まりでした。

ハイデルベルク大学の発表者の学生の方はみな修士課程に在籍されていることもあり、発表・質疑応答ともにハイレベルなものでした。ハイデルベルク大学の方は「The military tradition of the Japanese navy」「Cambodian Civil War」などといったテーマで発表され、東アジア地域に関する洞察の深さに衝撃を覚えました。私たちのグループは「The possibility of an East Asian Community in Comparison with the European Union」というテーマで発表を行い、構想段階にある東アジア共同体について、EUとの比較を行いながらどのような形で構築されていくべきかを考えました。とても熱心に聞いていただき質問も受けましたが、英語力の不足により不十分な回答しかできず、悔しい思いもしました。

発表後は今までの内容を踏まえた討論が行われました。活発な議論が起こり、私はなかなか英語が聞き取れず勉強不足を実感しました。議論では地域共同体が取り上げられ、経済的視点だけではなく政治的な視点も必要であること、また積極的な共同の平和構築の目的だけでなく大国の圧力から自国を守るための目的もあるのだということなどを学ぶことができました。さらにEUとは異なるASEANのような緩やかな繋がりというのも共同体の在り方としてのひとつだと分かりました。地域共同体の多様な在り方について考えを深められたのでとても興味深かったです。

また他の論点では、近年の特に先進国では、政治的にも経済的にも比較的安定しているため、労働条件などが少しずつ苦しくなっている、声をあげずに働き続けてしまうといった傾向が取り上げられました。日本の過労死問題ともつながる内容だと感じました。

平和とは何かを考えるのはとても難しく、紛争のない安定した状態が平和なのかということそれが答えでもないと思います。しかし今回のプログラムを通じて、他者を理解し、平和を模索していくプロセスこそ最も大切などではないかと考えました。

私が海外へ行くのは今回のプログラムが初めてで不安もありましたが、カム先生をはじめとする先生方、引率して下さった横田夫妻、橋本さん、ハイデルベルク大学のランランさんのサポートのおかげで大変有意義な時間を過ごすことができました。最後になりましたが、推薦書のご記入を頂いた永原先生、この研修を支えて下さった各大学の先生方、職員の皆様、すべての方々に深い感謝をお伝えしたいと思います。